

【講座全体のテーマ】

民主主義（デモクラシー＝民衆支配）という政治原理は、強い力を持っている。しかし、いろいろな「民主主義」があり、本当の民主主義がどれなのかもよく見えない。さらに、民主主義は、愚民政治、人民投票的独裁、決められない政治、少数者の自由や権利の抑圧、金権支配、政治的無関心、大衆運動による暴力的クーデタと表裏一体でもある。民主主義の価値と方法とについて根源的に考えるために、自由・平等、ナシヨナリズム、市民社会について考えていきたい。地方自治や代議制民主主義、熟議民主主義など様々な制度的議論が行われているが、今回は、その背景にある基本的視点を確認することを主たるテーマとして考えたい。

【各回のタイトルと内容概略】

1 自由と平等から民主主義を考える

我々は、生まれながらに自由かつ平等であるだろうか。かつ自由で平等であるべきであろうか。思考ゲームとして、アリストテレスの奴隷制論やジョン・ロックの論敵であったロバート・フィルマーの家長制論を参考にして、奴隷制の正当化や制限選挙制度の正当化の議論を提示しよう。参加者はそれに対

してどこまでどのように反論できるだろうか。この議論を参考にして、平等とは何の平等なのか。自由とはいったい何の自由なのかを考えたい。

2 ナシヨナリズムから民主主義を考える

近代国家は、国民に自由と平等を保障する最大のメカニズムである。しかし、同時にナシヨナリズムや愛国主義（パトリオティズム）は、自由と平等を破壊する重要なイデオロギーでもある。そもそも、「国民」やナシヨナリズムや愛国主義とは何でどのような射程範囲を持つものなのか、その意味は何なのかを考えたい。

3 市民社会から民主主義を考える

そもそもボランテニアは必要なのだろうか、それは我々の社会において暇で余裕のある人ができる余技に過ぎないのだろうか。じつは、市民社会（civil society）の観念は、人類が生み出してきた貴重な思想的遺産であって、国家の公共性と市場の貨幣的価値、あるいは暴力と金の力の支配に対抗して、どのように別の生き方の原理と拠点を構想するかに対する手掛かりを与えている。その意味を考えよう。